

ムギアカタマバエ

1 形態と生態

- (1)ムギアカタマバエは雌の成虫で 2.0～2.5mm、雄の成虫で 1.0～1.5mm の蚊を小さくしたような橙赤色のハエです。
- (2)成虫は 4 月下旬から発生し始め、5 月上旬に最盛期を迎えますが、3～4 月の気温により前後します。卵をコムギの穎の内側に生み付け、幼虫は子実を加害して成長し、6 月上中旬頃穂から脱出して土中に潜入します。
- (3)その後、地表下約 12cm のところで土繭を作り越冬し、翌春 3 月ごろ、地表近くに移動し楕円形の繭を作り蛹になります。



写真 1 ムギアカタマバエ成虫

2 被害の様子

幼虫によって子実が食害されるため、ムギの成熟期になっても子実が肥大しません。このため、穂全体が細く、穎が開かずノギが直立したままになります。また、被害穂は成熟しないため成熟期になっても穂全体が青く見えたり、穎が黒褐色に変色します。

4 月上旬ころに地表から深さ5cmくらいまでの土壌を採取し、網目 0.5mm のふるいで土壌を洗い流すと橙黄色の幼虫や直径2mmくらいの繭を見つけることができます。幼虫や繭の数が多い場合は薬剤防除が必要です。



写真 2 ムギアカタマバエ幼虫



写真 3 被害ほ場のようす



写真 4 被害粒(左)と健全粒(右)
写真下部は幼虫

3 発生について

(1)発生条件

- ア 畑で連作すると、発生数が年々増加します。
- イ 前年発生した圃場やその周辺で発生します。
- ウ 夏期に水田となる圃場では発生しません。
- エ 土壌が乾燥しにくい圃場では、発生が多くなります。
- オ ムギの出穂時期とムギアカタマバエの成虫発生最盛期が重なると被害が大きくなります。成虫発生最盛期は、ほ場やムギの播種様式により異なるので注意が必要です。
- カ 大麦ではほとんど発生しません。

(2) 発消長

蛹は成虫の初発生から10日後くらいが羽化最盛日となり、20日間程度ですべて羽化します。ムギに産卵された卵は5～7日でふ化します。羽化最盛日の30日後ごろから幼虫の穂内からの脱出が始まり、45日後ごろまで続きます。

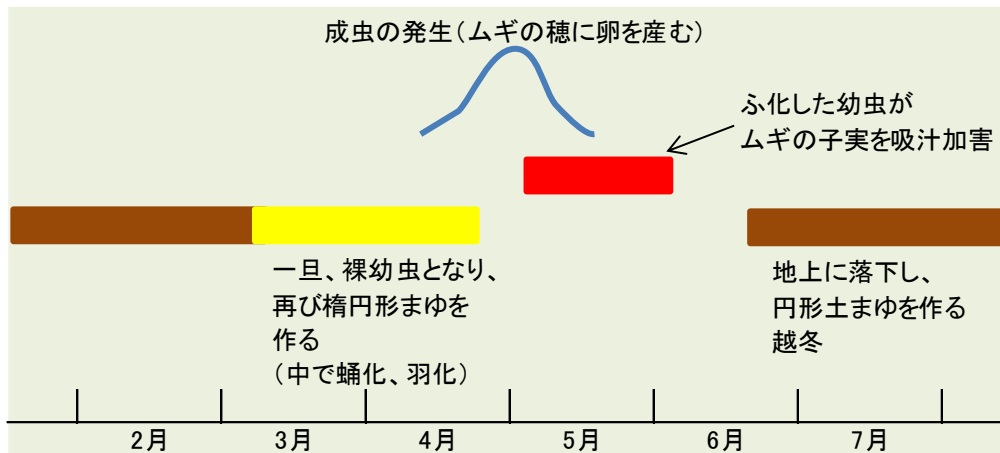




図1 ムギアカタマバエの発消長

年1回の発生である。  および  の期間は土中に生息する。

4 防除時期と防除方法

- (1) 薬剤防除は成虫を対象に行います。成虫の発生時期、発生量、発生型は圃場ごとに異なるので、発生動向に注意し防除時期や回数を決定します。
- (2) 成虫の初発生から2週間後頃が防除適期ですが、発生密度の高い圃場では、1回目の散布後3～4日後に2回目の防除を行います。ムギの生育ステージから見ると、穂揃期から開花始めの頃が防除適期です。
- (3) ムギ株内や土壌表面にも薬剤を散布して下さい。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当 TEL048-536-0409



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県